

第4回

小石原焼・小鹿田焼・高取焼

皿とカップ作陶展

2025年

11月8(土)~12月7日(日)

10時~16時30分 期間中の木曜日は定休日

会場/つづみの里陶器ギャラリー 福岡県東峰村大字小石原鼓3492-1

電話 0946-74-2278

小石原焼

KOISHIWARAYAKI

小石原で最初に民用の器が焼かれたのは1669年、その後1682年に福岡藩三代藩主黒田光之が肥前伊万里の陶工を招いて中野焼を開窯したと伝えられています。1975年陶磁器として初めて現経済産業省の伝統的工芸品に指定されました。

小鹿田焼

ONTAYAKI

江戸時代中期(18世紀)小石原の陶工柳瀬三衛門によって技術が伝えられ、黒木家が資金を提供し、坂本家が土地を提供したことにより窯が開かれました。

1995年に国の重要無形文化財に指定され、小鹿田焼技術保存会が認定されました。

高取焼

TAKATORIYAKI

小石原における高取焼の始まりは、1665年二代高取八山が窯を開きます。高取焼は、1600年代初期に近江の大名茶人小堀遠州の指導を受け「綺麗さび」の遠州高取様式が確立します。明治時代に一時途絶えますが、戦後、十一代高取静山が高取焼を再興しました。

●これまでの作陶展の作品(第1回・第2回・第3回)



この作陶展は、実用的で美しい小石原焼・小鹿田焼・高取焼の伝統を受け継ぐ手仕事の魅力をお伝えすること、小石原と小鹿田の交流を目的として開催します。民芸の兄弟窯と言われる小石原焼と小鹿田焼の飛鉦や刷毛目などの伝統技法の魅力、高取焼の薄くて軽い釉薬の美しさをお楽しみください。 つづみの里陶器ギャラリー